



こいのぼり泳ぐ神池の空

4月16日から5月14日にかけて、物部町神池の女池の上にこいのぼりとフラフが揚げられ、訪れた人々の目を楽しませました。

これは、地域住民が神池に人を呼び込もうと平成24年から毎年行っているもので、今年で6回目。これらを降ろす作業には、工科大学の学生も応援に駆け付け、地域の人たちと交流しながら汗を流しました。住民の一人は「苦労もあるが、地域のみんなで楽しくやっている。こんな山奥に池があり、こいのぼりが泳いでいるというのは新鮮な景色。これからも続けていきたい」と話していました。

揚げてもらったこいのぼりは気持ち良さそうに風に揺られ、神池の空を鮮やかに彩っていました。



少年剣士 躍動!

4月29日、香北体育センター（香北町吉野）で第12回香美市体力づくり少年剣道錬成大会が行われました。

市内外の学校・団体から73チーム、366人が参加し、小学生・中学生・高校生の3部門で熱戦が繰り広げられました。

市内関係者の入賞は残念ながらありませんでしたが、参加した選手らはレベルの高い試合に刺激を受けた様子で、良い経験となったようです。

大荒の滝を桜の名所に

3月3日、香北町谷相の国有林で、大宮小学校の児童たちが桜の苗木60本を植樹しました。

植樹されたのは、紅葉の名所として観光客も訪れる大荒の滝近くの林道沿い。昨年までにスギの森林を約900畝伐採しており、新たに桜の名所を生み出して楽しんでもらおうと、高知中部森林管理署が企画したものです。児童たちは、足場の悪い斜面での慣れない作業に悪戦苦闘しながらも、立派な大木に育つようお願いを込めて苗木を植えていました。



▲10年後には15センチほどの木に育つという

フラフのまちをPR

4月中旬から5月下旬にかけて、市内の観光地や公共施設にフラフが掲揚され、フラフのまち・香美市をPRしました。

これは、香美市の特産品であるフラフを、市内外の人にもっと知ってもらおうと企画したもので、広報香美等を通じて提供を呼びかけたところ、9枚のフラフが集まりました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。



▲龍河洞で観光客を出迎えた鮮やかなフラフ

アンパンマンからの贈り物

4月21日、玩具製造メーカー・アガツマから香美市へ、アンパンマンキャラクターの幼児向け知育玩具が寄贈され、香美市立やなせたかし記念館で贈呈式が行われました。

これは、故やなせたかし先生の故郷である香美市に毎年贈られているものです。20回目を迎える今年は、香美市長から感謝状が渡され、香美市の子どもたちを代表して新改保育園の園児たちが『アンパンマンのマーチ』を元気に歌いました。

寄贈された玩具は、市内の保育園や幼稚園などに配られ、たくさん子どもたちを笑顔にしてくれることと思います。



▲元気な歌声で感謝の気持ちを伝えた

空手姉弟 国際大会で大活躍

4月15日から16日にかけて、東京体育館で開催された第13回国際青少年空手道選手権大会で、西岡快莉くん（土佐山田町楠目）が組手5歳男女混合の部で優勝、西岡七夏さんが組手9歳女子トーナメントの部で3位入賞しました。

この大会は、国際空手道連盟極真会館の主催で開催されたもので、全部門合わせて1,800人の選手が参加した大規模な大会です。

2人は極真会館高知香美道場で日々の練習に励んでおり、その成果が実った姉弟での活躍に、はにかむような笑顔を見せていました。



▲西岡七夏さん（左）と快莉くん



女子カーアップ? 生け花教室

▲先生の手を見つめ真剣な表情。上手にできるかな

5月6日、香美市内の小学生を対象に、中央公民館でいけばなこども教室が開催されました。

これは、文化庁の伝統文化事業の助成を受けて実施されているもので、生け花の体験を通じて、伝統文化に関心や理解を深め、豊かな感性を育てることを目的としています。

この日は26人の子どもたちが参加し、フトイ、シヤクヤク、ソリダスターを使い、花を立てる形で生けました。

参加した子どもたちは、はさみの使い方や、花の効果的な見せ方などを習いながら、一つひとつの花を慎重に生けていました。

べふ峡温泉でシカ肉食べてね

4月29日、シカニクの日と題して、べふ峡温泉スプリングフェスタが一般社団法人香美市観光協会の主催で開催されました。

森のレストランでは、シカドッグをはじめ、シカ肉のステーキやから揚げなど、自慢のジビエ料理が好評で、たくさんの来場者が舌鼓を打っていました。

また、物部に伝わるいざなぎ流舞神楽や地元バンド・ティーバンズの演奏などもあり、多くの来場者でにぎわいました。

